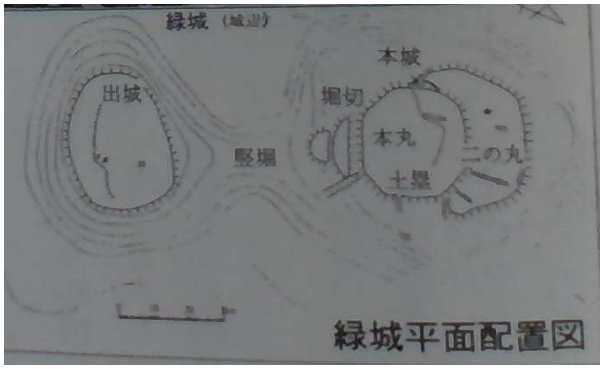

緑城跡

愛媛県南宇和郡愛南町緑字中緑

　緑城跡は、町指定文化財の一つである。常磐城（ときわじょう）を中心にして大森城（おおもりじょう）などのお城ができた。天正１１年（１５８４年）宿毛城主、長宗我部右衛門太夫（ちょうそかべうえもんだいぶ）によって攻め落とされた。城跡から堀切（ほりきり）を通してみると一本松にある枝城の一つである猿こし城跡が見える。崩れた崖などには、骨片（こっぺん）が白く出てくることもあり、戦の凄まじさを今に伝えている。

《常磐城》

　　戦国時代の御荘領主（みしょうりょうしゅ）が平城から中心の小高い山に城を築いた。これが常磐城であり、山の形から別名亀ヶ城とも呼ばれた。現在は、諏訪神社社殿（すわじんじゃしゃでん）のところが本丸、諏訪公園の台地が二の丸、西側の桜園が三の丸跡である。

　　大森城･･･本城「常磐城」守備のため、近くの大森山に築

いた枝城である。天正１１（１５８４）年、他の枝城と同じ頃に落城（らくじょう）し、城兵と本城に立てこもることになる。現在は、南レク大森山公園となり、当時の面影は少ないが、空堀（からぼり）やのろし台の一部などが残っている。